



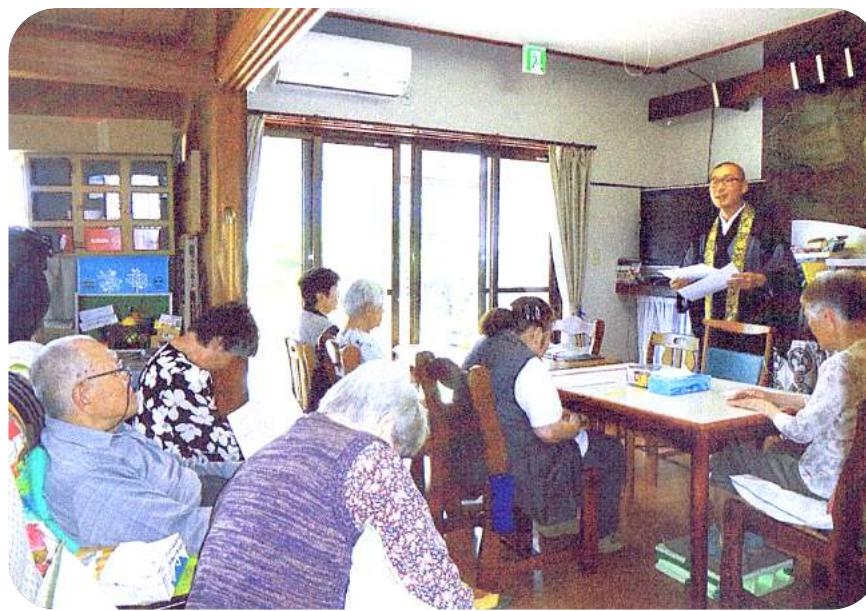
# その想い



第5号

発行人：谷泰智  
28年9月3日発行

## ★法話の機会をいただきました



少し前のことになりますが、5月23日に長浜のヘルパーステーションはち、にて法話をさせていただきました。

私にとって人生初の法話の機会でした。事前に話す内容を作文形式で仕上げておき、それを軸に場の雰囲気に合わせて割愛していく作戦でした。

案の定、実際に話せたのは3分の1程度でしたが、当日のテーマに据えていた『仏教の智慧』については割としっかり説明ができました。

その内容としては、仏教の根本思想である縁起に始まり、菩薩道実践の要とされる六波羅蜜までを関連させて専門用語なしでお伝えするというものでした。

ちょっと固い内容ではないか、という思いも私の中に確かにありました。終わってみると予想以上に皆さん内容を把握していて下さり、真剣に耳を傾けてくださいました。

平易な言葉で解りやすくというのが今回の狙いでしたが、やはりまだ私が至らないのは表現の仕方にあると痛感しました。ただ解り易いだけではダメで、聴いてくれる方を歓喜させるような表現力が話をより豊かにするのだろうなと思いました。そんな私を省みるにつれて、御釈迦様がなされた対機説法（理解力や社会的立場の違いに合わせて巧みに表現を変えて説法すること）とはいかに素晴らしいものであったかと、ため息交じりに想像する次第です。

※来る9月25日にも寺にて法話会を催しています。

## ★お彼岸のこと(前編)

今年の秋のお彼岸は9月19日から25日までの1週間です。そして秋分の日がちょうど中日の22日になります。

彼岸とは彼方の岸を略したもので、つまりは向こうの岸という意味です。大本の由来は2500年前のお釈迦様にさかのぼります。

お釈迦様は出家をされたあと当時の慣習に習い、ある林の中で6年間にわたる厳しい苦行をなさります。しかし、行き過ぎた苦行の過ちに気づき、その場を離れ川の中で沐浴をされ6年間の垢を落とされます。

そして向こうの岸（彼岸）に渡り、近くにあった大きな樹の下で静かに瞑想をなさり、遂に悟りを開かれたと言われています。悟りのことを古代のインドではボーディと呼び、それが漢語で音写されたもの菩提となり、以後その大きな樹は菩提樹と呼ばれるようになります。その仲間は皆さんが日頃お使いの数珠としても加工されています。

さて、そういう訳で本来の彼岸という意味は、御釈迦様が至られた向こう岸という意味での悟りの世界を表しました。しかし後世に曲解が進み、彼岸=あの世（死者の世界）という考えが定着していきます。さらにそこから、間を流れる川のことを『三途の川』として日本人の死生観にも取り込まれていきました。

日本では仏（ホトケ）と言えば亡くなった人と思われがちですが、上の説明かわお解りのように本当は『仏=悟った人』が正解です。さらに大乗佛教の中で解釈が拡がり、御釈迦様=仏様→その他多くの仏様、という世界観になります。

そして、この多くの仏様の中に皆さん一度は耳にしたことがある、大日如来や阿弥陀如来や薬師如来がおられます。では、なぜ彼岸は年に2回あり、春分の日と秋分の日が中心になっているのか・・・？その疑問には実は阿弥陀如来という仏様が大いに関係しているのです。

この続きは来年3月頭に発行予定の来々号でお伝えしたいと思います。どうぞ、お楽しみに。



## ◀ 回りて向かう ～仏壇について その二～

今回は、各ご家庭において御仏壇とどのように向き合えばよいのかについて、順を追って説明したいと思います。ここでご紹介するのはあくまでも一つの例ですので、もしご家庭で独自な伝統をお持ちの場合は、そちらを優先された上で参考にしていただけたらと思います。

1. まずは日常に使用していただきたい佛具についてです。これらは香炉・灯明・花瓶の3つで三具足と呼ばれ、ほとんどの宗派で右図のように並べられます。また灯明と花瓶が一つずつ増えた形式を五具足と呼び、こちらも一般的な並べ方です。

線香の本数は何本でも良いです。お花の種類は基本バラなどトゲのあるものは避けますが、故人様が特別好きだった場合は別の花瓶で添加するお供えとしてなら良いでしょう。

また基本的に、毎朝のお供えはお水で結構ですが、一番炊きの御飯やお茶を供えられるのは尚更素晴らしいです。



2

1回の動作は立った状態から



(身体が出来る範囲で)  
両手の指は少し上げます

3



4



5



2. 次に三礼となります。これは動作こそ3回繰り返す礼ですが、仏・法・僧の三宝それぞれに対して心から敬礼することです。ちなみに僧とは僧侶だけではなく、御仏壇に向かい手を掌す皆さん自身をも含みます。我々の宗派では『一心頂礼本尊諸尊一切三宝』と言いながら礼します。

イッシンチョウライボンソンショソソイッサイサンボウ

3. いよいよお参りの本分となる読経ですが、なにも読経に限らず短い御真言を3回唱えるとか、或いはじっくり腰を据えて念佛を100回唱えるなどでも構いません。

主な御真言には不動明王の『ナマクサマンダ バサラダン カン』があり、念佛では阿弥陀如来の『南無阿弥陀仏』があります。

もし「御真言や念佛を唱えてもどうもしっくりこない・・・」という人には、ご家族ご友人の笑顔を静かにイメージすることをお勧めします。

4. 読経が終わると、次に祈願あるいは回向を行います。どちらも同じような意味合いですが、祈願は直線的で、回向は間接的なイメージを含んでいます。

「生きている人も既に亡くなっている人も、その在り方においてより良いものとなってほしい・・・またそうなるように精進していきます！」という願いや決意を毎日紡いでゆくのです。

5. 最後にはまた三礼をします。実は始まりも終わりも本来は五体投地礼拝が理想です。頭の前に差し出した両掌の上に仏様の御足を頂くイメージで行います。そして自分の身体を泥の水溜りに架ける橋のようにして、その上を歩いていただくのだという謙虚な気持ちで自らの驕りを捨てるのです。しかしご家庭での場合はできる範囲で、身体に無理をせず、あくまでも先に説明したイメージを抱いて行ってください。

全て終えると忘れてはならないのが火のもとです。灯明台に合わない長すぎるローソクを使うことは控え、くれぐれも消火を確認しましょう。

以上が仏壇に向かう時の基本的な流れとなりますが、近頃世間では、御仏壇を自由な暮らしを阻む足枷のように捉える向きがあります。古い御仏壇は場所を取るから邪魔になるなんて思われる方も決して少なくないと思います。

でも、その御仏壇が初めてお家に来た時のこと想像してみて下さい。それはまだ皆さんがお生まれになっていない遙か昔のことかもしれません。今はもう位牌で祀られている御先祖様たちが、一心に胸に描いていた明るい未来に、皆さんは今生きているのです・・・。

※経典をお求めの方はお気軽に護国寺までお電話ください。

# ★檀家さんに聞く



日高村の食と言えば現在はオムライスが有名ですが、忘れてはならないのが『浜ちゃんのお寿司』。

日高村の人にとっては馴染み深く、美味しいのが当たり前になっているその味には、作り手である山岡濱子さんの当たり前じゃない精進が秘められていました。

（今日は早く終わったき待ちかねちょっとぞね（笑）さあ、そしたら海苔から巻いてみようかねえ。

（この日は実演してもらひながらのインタビューでした。）

（ああ柚子の良い香りがしますねえ。）

（柚子は年間で60升も使うで。具にする野菜はだいたい地元のを使って、それを全部炊いて味付けせないかんがよ。 村の駅ひだかに並ぶ）

（味付けは全部濱子さんがやられゆうがですか？ 浜ちゃんのお寿司→）



（そう、味付けは全部ね。でもお稲荷さんは嫁さんが仕上げてくれて、魚をさばくのとかき揚げは息子がやってくれゆう。で、それらを配達するのはお父さん（御主人）と孫の仕事。）

（日高村の外にも出します？）

（遠いのは越知と高岡で、全部で5ヵ所に出しゆう。）

（一日どれぐらい作られます？）

（そうやねえ、平日やったら饅頭が70個ぐらい作って、それからお寿司が30本ぐらい巻いて、嫁さんが稻荷寿司を20パックぐらい仕上げて、あと鯖寿司が・・・どればあやろ・・・。）

（なかでも鯖寿司は昔から評判がいいですね。）

（そう、それこそ今日鯖寿司作るのを見せちゃりたかったけど、）

昨日JAの市場に魚が入ってのうて残念よ。

まあ昔の話をしたら、私は48才ばあの頃に錦山のゴルフ場の茶屋で働きよったのよ。そこでなんか売れるものはないろうかと思うて始めたのが、今も作りゆうお饅頭ながやけど、そのあと鯖寿司も始めたところが有難い事にお客さんから好評で、「浜ちゃん、こりあ市内にお店出したら流行るで！」って言うてくれる人もおったがよ。

（もともとお料理の仕事をしようとしたがですか？）

（いんや。私は越知の横畠の出身ながやけど、昔は田植えのとかの時に近所同士で皆が一緒にやりよったがよ、でその後は『お客様』をせないかんかって、そこで料理を作るのを覚えたがよ。）



（何が一番大変な作業ですか？）

（やっぱり小豆や米を炊いたり混ぜるときよね。お米は土日やったら8升炊いても足らんきねえ。重たい釜を持つのがたまらんわね。）

（朝の仕込みとかも大変そうですね。）

（朝は3時過ぎに起きるねえ、飼いゆう猫が外行きたいき開けろ言うて噛みついて起こしてくれる。（笑）それから6時半頃に嫁さんが来てくれて、孫も何かと弟子になって覚えながら手伝ってくれゆう。（笑））

（まさに家族の味ですねえ。もしかまんかったら一般の家庭で鯖寿司を作る時のコツを教えてもらえませんか？）

（そうやねえ、私は一切量らんきねえ。まあ鯖寿司やったら使うお酢よね。そのお酢をそのまま入れるんじゃなくて、朝そこに魚を漬けて出汁を効かせてから米に混ぜるだけで全然変わってくるで。）

「女房の鯖寿司は天下一品ぞ。」って、うちのお父さんも外では言うてくれゆうらしいね。ま、私には一言も言いやせんけど。（笑）はい！お寿司出来たき持って帰りや。  
出来立てのお寿司はいつも以上に美味しかったです。

浜ちゃんこと山岡濱子さん



# お経のことば



～心に童男・童女の身を以て度うことを得べき者には、  
即ち童男・童女の身を現わして、為に法を説くなり。

妙法蓮華経 観世音菩薩普門品第25

訳 岩本裕

今回のお経は観音経として宗派を越え広く読誦されているお経です。これは皆さんのご家庭の御仏壇の前でも、日常用いられやすいお経のひとつです。

『観音様』として全国で親しまれている観世音菩薩ですが、有名な千手観音や、麗らかな女性のような如意輪観音も全て観世音菩薩と言えます。これ以外にも多様な形式を持つ観音様ですが、仏様の種類としては菩薩という位に置かれています。

菩薩とはサンスクリット語のボーディ・サットヴァを漢語にしたもので、その意味は『世間にまみれながらも人々を悟りへと導く人』です。そういう訳で、このお経には観音様が三十三種類もの姿をとつて我々に説法をしてくれるということが書かれています。その三十三の姿は多岐に渡り、王様から普通の女性、子供、そして人間以外の愛すべき神様としても現れると説かれます。

上のお経のことばは、観音様を切に望む人が子供である場合、同じような子供の姿でその人を導いてくれるという意味です。そして人生のピンチと言える様々な困難の局面に於いて『念彼觀音力』 = (彼の観音様の力を信じなさい) というフレーズがその度に登場し、やがて奇跡がおきる・・・。観音経には主にそのようなことが説かれています。

しかるに、皆さんに注目していただきたいのは観世音菩薩の『観世音』というところです。つまり、ふつうは音を聴くというのが正しい表現だと思いますが、敢えて『音を観る』となっているところが観音様の大きな特徴であると私は思います。

そもそも、観世音菩薩は別名、觀自在菩薩とも呼ばれます。そうです、あの般若心経の冒頭に登場する『觀自在菩薩行深般若波羅蜜多』と同じ菩薩なのです。そのことから『物事を自由自在に観る菩薩』或いは『自らが在ることを正しく観る菩薩』と、仏教学のなかでは解釈されています。

しかし、ここで敢えて私の解釈を述べると、それはストレートに『音を観る』ことなのではないかと思うのです。音を観る、つまり我々が暮らす世間に飛び交う苦しみの声、その音をそれが誰から発せられたのかがわかるほど傍で観てくれている・・・。遙かな雲の上から我々を見下ろしているのではなく、三十三もの姿を取って我々に似た姿で世間にまみれて下さっているのだ、と私は解釈しています。

加えて、観音経が我々に説くところはそれだけではないのです。それは時に我々自身も観世音菩薩に成りえる可能性を持っている、さらに踏み込めば観音様になろうとすることを、このお経は求めていると私は思います。

誰もが一度は経験したことがある、「あの時あの人に大変お世話になってしまった・・・、もしあそこであの人に会わなかったら・・・。」そんな不思議な縁には、きっと念彼觀音力があるからなのだと、私には思えてなりません。

- 9月25日(日曜日) 法話会・彼岸会・千体流し  
午後2時半より護国寺にて90分の法話に続き彼岸会・千体流し

- 10月30日(日曜日) 住職と大瀧山に登る日  
午前9時に護国寺集合(お弁当各自持参)(瞑想と散策します)

- 毎月28日 柱源護摩供・ヨガ体操

柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回です。

ヨガ体操の日程は9月は10時半~、10月はお休み、11月・12月ともに10時半~

※葬儀が重なると変更される場合があります。

護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

☎ 0889-24-7244

ホームページ [gokokuji.site](http://gokokuji.site)

仏事に関するお悩み、ご質問、行事に関するお問い合わせ等、お気軽にお電話ください。

